

火災から1年 ～首里城復元に向けた取組状況～



首里城の火災から1年

令和元年10月31日の火災により首里城正殿等が焼失してから一年が経過しました。開発建設部では首里城復元に向けた体制を強化するために職員を緊急的に増員（本局1名、国営沖縄記念公園事務所4名）するとともに、首里城復元整備推進室（15名）を設置し、一日も早い首里城の復元に向け取り組んでいるところです。

また、各方面の分野の有識者を委員、各関係省庁を協力委員とする首里城復元に向けた技術検討委員会及びそのワーキンググループ（防災、木材・瓦



火災直後の状況（令和元年11月1日撮影）



現在の状況（令和2年9月8日撮影）

類、彩色・彫刻）を設置し、復元に向けた議論を行っています。昨年度に本委員会によってとりまとめた「首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術的検討に関する報告」を踏まえ、政府において「首里城正殿等の復元に向けた工程表」を決定しています。首里城正殿については、令和2年度早期に設計に入り、令和4年中には本体工事に着手、令和8年までの復元を目指し、事業に取り組んでいます。

以下、この一年の取り組みをご紹介します。

復元の様子を段階的に公開

○正殿遺構等の一般公開

現地での破損瓦等の撤去や火災の影響を受けた正殿遺構の保護処置等が完了することを受けて、6月12日より有料区域の一部を一般公開しておりますので、ぜひ復元していく首里城の様子をご覧ください。



ガラス越しに正殿遺構を見学している様子



正殿遺構

○大龍柱の補修公開

大龍柱を仮設補修作業場へ移して補修するために、台座から取り外す作業を9月23日に報道陣に公開しました。火災により損傷を受けた大龍柱は下之御庭に設置したプレハブ小屋に移して展示し、新たに制作する大龍柱の見本として活用する予定です。



養生作業中の大龍柱



下之御庭に整備中の補修作業場

首里城復元に向けた技術検討委員会での検討状況について

高良倉吉琉球大学名誉教授を委員長とする10名の有識者を委員、各関係省庁の職員11名を協力委員とする「首里城復元に向けた技術検討委員会」は、これまでに委員会を5回、ワーキンググループ会議を6回開催し、復元に向けた技術的な検討を行っています。



高良倉吉 委員長

○木材・瓦類関係

政府によって決定した工程表に基づき、来年度から木材（大径材）の調達を行うため、5月より国内の事業者等に対し木材（大径材）の市場調査を実施しました。調達可能性の点では、国産ヒノキ、カナダヒノキともに使用可能でしたが、琉球王朝時代においても本土から木材を調達していた歴史的経緯を鑑み、構造材（大径材）については原則として国産ヒノキを選定することとしました。

○防災関係

首里城全体として今後整備すべき防火対策の考え方を整理しつつ、正殿を火災による焼失から守る具体的な防災・防火設備について検討しているところです。

今般の火災では早期発見と初期消火を徹底することの重要性が確認されたことを踏まえ、首里城正殿に、最先端の

自動火災報知設備等の火災を早期発見するための設備やスプリンクラー設備等の初期消火設備を導入する予定です。

○彩色・彫刻関係

前回復元後に確認された新たな知見への対応について、復元後の補修実績、古文書や古写真、発掘調査報告等の資料をもとに、詳細な検証を進めているところです。

その他の彩色・彫刻について、材料調査を実施するとともに必要に応じて石膏模型・下絵の制作を行い、仕様や手法等の検討を進めていきます。

赤瓦の漆喰はがしボランティア

沖縄総合事務局、沖縄県、（一財）沖縄美ら島財団では、火災により影響を受けた首里城の赤瓦の漆喰はがしボランティアを募集しました。内容は、首里城復元に向けた作業が日々進む現場の近くにおいて、破損瓦等の処理の一環として、今後さまざまな用途で利活用の可能性がある赤瓦の漆喰はがしにご参加いただくものです。3月23日～4月4日（3月31日と4月1日は悪天候のため中止）の11日間実施し、937名の方々に参加していただきました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただきありがとうございます。

今後も、沖縄県と協力を進めながら、ボランティア活動や公園イベントの開催等を計画し、地域振興や沖縄の観光振興への貢献に努めてまいります。

首里城正殿等の復元に向けた工程表

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9以降
正殿	材料調査 (大径材)	市場調査								
	設計		基本設計	実施設計						
	材料調達 (大径材)			調達・乾燥						
	工事	仮設道路 がれき撤去		木材倉庫	発注手続(WTO)	本体工事				
北殿、南殿等		撤去		正殿復元の施工ヤードとして使用						
		検討							工事	

「首里城復元のための関係関係会議」令和2年3月27日決定

首里城復元に向けた「3本柱」

一般公開をはじめとする「段階的公開」、正殿を皮切りとした「首里城復元」、それらの実施を通じた「地域振興・観光振興への貢献」を「3本柱」として首里城復元に取り組んでいます。

段階的公開

首里城復元に向けて進む破損瓦等の撤去や躯体の解体、復元工事の様子を、安全性を確保しながら一般公開を進めます。



正殿遺構の覆屋と公開用仮設デッキ

首里城復元

令和4年中の首里城正殿の本体工事の着工に向けて、関係機関と密に連携を図りながら、首里城復元に向けた技術検討委員会での検討を進めます。



令和2年度第1回首里城復元に向けた技術検討委員会(R2.5.21開催)

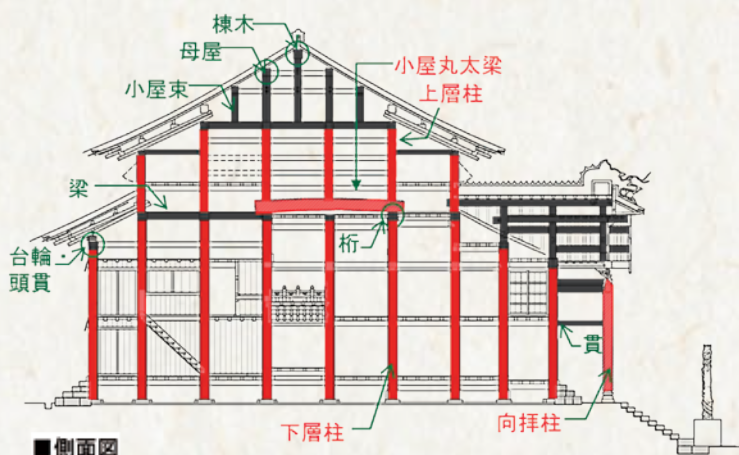
地域振興・観光振興への貢献

首里城の段階的公開、首里城復元に向けたボランティア活動や公園イベントの開催を通して、沖縄の地域振興・観光振興への貢献に努めていきます。



首里城赤瓦漆喰はがしボランティア

沖縄県が調達する大径材の範囲



【凡例】県調達範囲を赤塗り

沖縄県首里城復興基金を正殿の木材調達に充当

沖縄県や那覇市などには、一日も早い首里城の復興を願う国外を含め県内外から多くの寄付金が寄せられています。沖縄県は、今年の3月に沖縄県首里城復興基金を設置し、寄せられた寄付金を首里城火災からの復興を目的とする費用の財源に充てることとします。

沖縄総合事務局と沖縄県は、寄付金を正殿復元工事に用いる大径材の調達に充てるために、国と県が連携・協力して行う事項を定めた「首里城正殿復元」

元工事に用いる大径材の譲渡に関する覚書」を締結しました。その覚書に基づき協議を行い、正殿復元工事に用いる大径材のうち、柱材（国産ヒノキ）と小屋丸太梁材（国産ヒノキ）を沖縄県が調達し、沖縄総合事務局に無償譲渡することについて合意しました。今後は、赤瓦や彫刻類の調達や復元についても沖縄県首里城復興基金が充当される予定です。

お問合せ先
開発建設部 建設産業・地方整備課
☎098-866-11910